

# 第37回「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウム

## —日本周辺海域の温暖化と相模湾における生物相の変動との関わり—

水産海洋学会

共催 (公財)相模湾水産振興事業団  
小田原市

日 時：2013年10月22日(火) 09:30-15:30

会 場：小田原市生涯学習センターホール

コンビナー：平野敏行(東大名誉教授)、松山優治(東京海洋大名誉教授)、武井 正・岩田静夫((公財)相模湾水産振興事業団)、米山 健(神奈川水技セ)、石戸谷博範(神奈川水技セ相模湾試)

開会のことば：川崎秀一((公財)相模湾水産振興事業団) 09:30-10:00

挨拶：和田時夫(水産海洋学会長)

加藤憲一(小田原市長)

武井 正((公財)相模湾水産振興事業団理事長)

座 長 松山優治(東京海洋大名誉教授)・鈴木秀弥(元中央水研)

基調講演

「日本周辺海域の温暖化の特徴」

10:00-11:00

安田一郎・友定 彰(東大大気海洋研)

話 題

1. 日本周辺海域に起こっている海況と海洋生物の特異現象

11:00-11:40

渡邊朝生(中央水研)

2. 相模湾の海洋環境の今と昔の特徴

11:40-12:20

清水顕太郎・山田佳昭(神奈川水技セ)

.....昼 食.....

12:20-13:00

座 長 米山 健・石戸谷博範(神奈川水技セ)

3. 水温と海藻相の関係—相模湾と駿河湾の海藻相の違い—

13:00-13:30

田中次郎(東京海洋大大学院)

4. 相模湾・周辺域における最近の魚類相の変化

13:30-14:00

高村正造(神奈川水技セ相模湾試)・平井一行(静岡水技研伊豆分場)

5. 関東・東海海域における最近のブリ類資源の特徴

14:00-14:30

久野正博(三重水産研)・阪地英男(中央水研)

6. 総合討論：平野敏行(東大名誉教授)

14:30-15:30

(1) 現場からの意見

① 加藤 孝(定置網漁業)

② 久保田源太郎(遊漁船漁業)

③ 鈴木喜一(刺網漁業)

(2) 討 論

閉会のことば：高橋富士一((公財)相模湾水産振興事業団)

開催趣旨：「海の温暖化」が進行している。気象庁の報告(2007)によれば、過去100年の世界の海面水温上昇の平均は約0.6℃であるのに対して、わが国周辺ではこの値の2-3倍に達している海域もある。特に、近年の水温上昇率は急激であり、日本周辺海域でも、南方系種のアイゴ、サワラ、ハリセンボンなどの北偏、サンゴ類の白化現象・分布域の北偏、海藻の分布域の変化など、海洋生物への影響が出始めている。「海の温暖化」と近年頻繁に起きる異常気象との関係は不明だが、時間の経過と調査・研究の進行にともない両者の関係が明確になり、「海の温暖化」の影響がより大きくなる可能性もある。今回のシンポジウムは、「海の温暖化」をテーマに、まず日本周辺の温暖化の実態と特徴について講演していただき、次に温暖化の影響と思われる漁海況の特異現象、相模湾および関東・東海地域の漁海況や生物相に見られる経年変化の特徴などについて話題提供をお願いする。総合討論では、「海の温暖化」と漁業について、現場で漁業活動をしている漁業者から意見を聞きながら議論し、今後の相模湾漁業の持続的な発展と環境保全の在り方を考えると共に、シンポジウムの成果を社会に発信することを考えている。